

一般選抜 試験の準備にあたって

〔英語〕

英語力に関しては、基本は高校の英語の授業です。授業で使用している教科書の内容を、正確に理解するようにしてください。さらに、参考書なども使って、特に重要な単語やイディオム(熟語)、構文をある程度覚えることも必要です。また、関係代名詞などの文法の知識も必要不可欠です。英文和訳では、正確で自然な和訳が求められます。その際、1つ1つの英単語を、英和辞書に載っている日本語訳にただ当てはめていくだけの逐語訳ではなく、文章全体を見て、総合的に自然な日本語になるよう意識してください。場合によっては、英文では省略されている単語(関係代名詞の that など)を自分で補って訳を考えることも必要です。これらは一朝一夕で身につくものではないので、高校の授業を基本として、くりかえし復習と練習をすることが重要です。また、時事問題や社会問題にも関心をもつことが、解答の助けとなることもあります。日頃から新聞やニュースを見るように心がけてください。

〔公民〕

公民科は高校によって履修科目が異なることから、2024年度までの入試は基本的に現代社会履修者でも政治・経済履修者でも対応できるように配慮してきました。2025年度入試からは新しい教育課程の生徒が受験生となるため、必ず履修している「公共」から出題します。ただし旧課程の受験生に対応するため、旧来の現代社会や政治・経済にも配慮します。法学部で学ぶための基礎として、高校での公民科の学習や時事問題への関心は重要です。対策としては、日頃の授業を大切に知識を積み重ねること、新聞やニュースに触れて時事問題への関心を高め自分で調べる習慣を身につけることを挙げます。大学の学びではそのようにして獲得した知識を活用する場面が数多くありますので、今できる学習を大切にしましょう。

〔小論文〕

これまでに小論文を書く機会が何度かあったかと思います。単に、受験対策のため、というだけでなく、自身の文章表現力をより高めていくためには、文章を書くという「トレーニング」を意識的に積み重ねていくことが不可欠な作業となります。

その際、書いたものが他の人の目に触れることにより、文章表現や文章内容の客観性を高めることにつながることもできるので、①書いたものを先生に読んでもらい添削してもらい、②友達との間で互いに書いたものを交換しコメントし合う、③それらを参考にして、書き直しを行う、といったことをしてみることをお勧めします。

さらに、論述内容の質を高めるためには、日頃から、新聞を読むなどして社会問題に広くアンテナを張っておくことが有効ですし、加えて、友人たちと様々な事柄について意見交換をする習慣を作ることも小論文試験対策として大いに役に立つはずです。

なお、その際に、どのように表現すれば、自身の意見を読み手に的確に伝えられるのか、といった点などを意識するようにしましょう。

最後に、作文練習において「時間を意識しながら作成する」ということが、実は、とても大切なポイントです。

〔国語〕

残念ながら、受験科目の中でも、とりわけ、国語の学習・受験対策には「特効薬（あるいは即効性のある方策）」といったものが存在しないようです。日常生活、特に、高等学校での学習活動全体（国語だけに限りません！）の中での地道な積み重ねが、大きくものを言うことになります。どれだけ語句や表現などに高い感度をもって接することができるか、また、どれだけ厳密・精確に文意・文脈を把握することに意識を向けるか、ということが重要になります。

たとえば、私たちは、普段使用している、日本語で書かれた文章で使用されている漢字・語句などについて、改めて、それらを確認しようとすることなく、「読める・書ける・（だいたいの）意味を理解できている」などと思ってしまっています。しかし、果たしてそうなのでしょうか。わずかでも何か気にかかることがあれば、その都度、面倒であっても、調べる・確認する「作業」をしてみてください。不確かであったものが（より）確かな知識へと変わっていきます。

また、現代文の問題演習をする際には、文意・文脈・論理展開といったことに意識を向けるように心がけてください。ワーク（あるいはトレーニング）としての「要旨把握」の積み重ねは、確かな国語力の養成に大きく寄与します。コツコツやってみましょう。